



TITLE:

第3期中期目標・中期計画期間における全学機能組織のミッション及び方向性

AUTHOR(S):

京都大学

CITATION:

京都大学. 第3期中期目標・中期計画期間における全学機能組織のミッション及び方向性. 2016

ISSUE DATE:

2016-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/245704>

RIGHT:

第3期中期目標・中期計画期間における
全学機能組織のミッション及び方向性について

学域・学系制度検討ワーキンググループによる「全学機能組織の見直しにかかる検討結果報告」を受け、部局から提出のあった書類に基づき、企画委員会において、第3期中期目標・中期計画期間における全学機能組織のミッション及び方向性にかかる審議を行った。

については、審議結果（答申）を下記のとおり決定する。

記

1. 企画委員会における審議経過

8件について以下のとおり審議を行った。

高等教育研究開発推進センター
総合博物館
情報環境機構
図書館機構・附属図書館
産官学連携本部
学生総合支援センター
大学文書館
学際融合教育研究推進センター

平成27年9月4日（金）

～平成28年1月12日（火）（書面審議・ヒアリング）

平成28年1月19日（火）（審議）

2. 企画委員会における審議結果（答申）

別添のとおり

第3 期中期目標・中期計画期間における全学機能組織のミッション及び方向性(答申)
【図書館機構・附属図書館】

1. 第3 期中期目標・中期計画期間における組織のミッション

○図書館機構のミッション

- 図書館機構は、世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とする。将来にわたって、本学における教育・研究活動を支援し、かつ国内外の学術コミュニティに貢献するために、人類の知的資産である学術情報資源や新たに生み出される知的成果を不断に収集、整理、保存し、関連する情報を発信するとともに、常に最上質の先進的情報サービスを研究開発し、提供する。
- 特に第3 期中期目標期間においては、「京都大学オープンアクセス方針」に基づく研究成果や資料の電子化と公開、アクティブラーニングに対応する新たな学修支援等の実現を重点項目とし、全学一体となって取り組んでいく。

○附属図書館のミッション

- 附属図書館は、本学に所属する図書その他の資料の管理と運用をつかさどること、またそれに必要な調査研究を行うことを目的とし、加えて、図書館機構のミッションを全学的に実現するための調整機能を担う図書館としての役割を果たす。
- 第3 期中期目標期間においても、「常に最上質の先進的情報サービスの研究開発」を一層推進するため、附属図書館研究開発室を中心にその機能を充実させる。

2. 第3 期中期目標・中期計画期間における組織の方向性

○図書館機構の方向性

- 全図書館がそれぞれの機能を発揮しながら相互に深く連携する図書館ネットワークを整備し、一体的かつ機能的に運営できる体制の構築を図るとともに、世界の大学図書館を巡る新動向（アクティブラーニング、研究成果のオープンアクセス化等に係る支援）や学内の教育研究環境の変化を踏まえた支援を推進する。特に、エリア連携図書館の整備を進め、図書館機構の全学機能の拡充を図る。その際、予算や職員等については全学的な体制を目指す。
- 情報環境機構等学内関連組織との連携もさらに深めて機能の充実を図るほか、図書系職員の高度化に努め、研究情報の電子化・オープン化等に対応した研究・学修支援を展開する。

○附属図書館の方向性

- 「京都大学図書館機構将来構想」の実現を支える組織として、全学の図書館を先導する取り組みを進めるとともに、24 時間利用可能な学習スペース「学習室 24」、活発な知的交流の場「ラーニング・コモンズ」、約 100 台のパソコンが設置されている「情報端末エリア」をはじめとした利用者環境の整備をさらに拡充する。
- 教員の配置については、附属図書館及び図書館機構の機能を維持しつつ、新たに求められる役割にも柔軟に対応できるよう、研究開発機能の強化を図る。